

◎ 企業経営理論

【総評】

令和8年度の本試験は、量の面から見ると設問数は41設問と前年度と同数である。前年度と比べ、解答の判断が難しい問題もあったが、全体としては例年通りの難易度であったと思われる。

難易度を決める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一と5肢択一の問題を比較すると後者の方が難易度は上がる。今年度の出題状況を見ると、4肢択一と5肢択一の設問の比率が9対32になっており、前年度の10対31よりも5肢択一の出題数がやや増加している。よって、難易度は下がっておらず高めの難易度であると思われる。

出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問（第1問～第13問）、組織論が14設問（第14問～第27問）、マーケティング論が14設問（第28問～第41問）であった。近年の出題傾向と比較しても、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

分野ごとに見ていくと、戦略論は、5肢択一の設問が13問（前年度12問）である。第2問（SWOT分析）や第13問（スリーサークルモデル）のような事例問題もあるが、比較的取り組みやすい問題が多かったと思われる。第2問（SWOT分析）、第3問（シナジー効果）、第5問（価値連鎖）、第6問（競争優位）、第9問（生産性にジレンマ）、第13問（スリーサークルモデル）などで得点したい。

組織論は、5肢択一の設問が9問（前年度10問）であった。第24問～第27問までの賃金の支払、男女雇用機会均等法、在職老齢年金制度、みなし労働時間制に関する問題では、時事的な要素を含む出題もみられ、その対策の有無で対応は分かれたと思われる。第18問（リーダーシップ理論）、第20問（クラスター論）などの問題で得点したい。

マーケティング論は、5肢択一の設問が10問（前年度9問）であった。一つ一つの選択肢の文章が長く、読むのに時間がかかってしまう問題が多かった。また、一部の問題は、運営管理や経営情報システムで学習する内容も問われていた。第30問（生産財マーケティング）、第35問（パブリックリレーションズ：PR）、第39問（消費者行動への影響要因）、第41問（流通チャネル）などで得点したい。その他、マーケティングに関する専門用語が問題の随所に見られたため、これらを正しく把握できていたかどうかで、得点に影響があったものと思われる。

以上